

婦 人 科 学

【単位数：1単位，授業16コマ，予備4コマ(定期試験含まず)】

当該科目は医師としての臨床経験を持つ教員が担当する授業科目である。

1 科目責任者

大須賀智子 教授(産婦人科学)

2 教育目標

(1) ねらい(I-7-b, I-8-b, III-3-b, III-4-b, III-5-b)

- ① コンピテンスである“医学知識と科学的探究心”の理解ができるようになるため，婦人科医療に必要な知識，技能，態度を学び，そのことによって医学生としての“プロフェッショナリズム”を身につける。
- ② 女性生殖器の構造と機能を理解し，婦人科診察や手術に立ち会い，生殖器に問題を有する患者の診断と治療に関する知識を学ぶ。

(2) 学修目標

- ① 女性生殖器の構造と発生・分化の過程及びその異常を説明できる。
- ② 女性の加齢に伴う変化とその異常を説明できる。
- ③ 女性不妊症の系統診断，治療を説明できる。
- ④ 女性性器腫瘍の予防，症候，病理所見，診断，治療を説明できる。
- ⑤ 女性感染症の症候，診断，治療を説明できる。

3 成績の判定・評価

(1) 総合成績の対象と算出法

	成績対象	割合	方法・コメント
定期試験	○	90%	多肢選択問題を原則とする。
小テスト	○	10%	アクティブ・ラーニングにおいて，小テストを行う。
態度	○	—	態度不良の場合は，総合成績から10点を限度に減点をする。

出席： 定期試験を受験するためには欠席率が3分の1を超えてはならない。

(2) 合格基準

評価対象の合計が60%以上(又は60点以上)で合格とする。

(3) 再試験・再評価の方法

定期試験に準ずる再試験を行う。60%以上を合格とする。

(4) 課題(試験やレポート)へのフィードバック

試験で正解率が著しく不良な問題は，その領域に関連する簡単な解説をAIDLE-Kに公開する。

4 教科書

書名	著者名	出版社	教科書として指定する理由
配付資料をAIDLE-Kに収載			

5 参考図書

書名	著者名	出版社	参考図書とする理由
標準産科婦人科学	岡井 崇 綾部琢哉編	医学書院	基本から最新の膨大な情報が有機的に統合されている。
NEWエッセンシャル 産科・婦人学	池ノ上克, 鈴木秋悦	医歯薬出版	医学生に必須の最新知識を取り入れている。
https://www.uptodate.com		UpToDate	院内HPからアクセスして最新情報入手できる。

6 準備学習（予習・復習）

- ① 講義前に事前配付，又はAIDLE-Kにアップされた講義資料に目を通して講義に参加し（約1時間），講義終了後は，内容を再確認して次の講義に臨むこと。
- ② 参考図書を利用し，授業で触れられなかった内容についても理解すること。理解できない点があれば，オフィスアワーなどを利用して質問し，理解すること。
- ③ アクティブ・ラーニングは，事前に配付又はAIDLE-Kにアップされた資料に目を通し，疑問点を参考図書などで調べた上で臨むこと。

7 授業計画

（1） 講義の方法

基本的に大教室での知識伝達型の講義である。
アクティブ・ラーニングを導入する。

（2） 講義の内容

コアカリキュラムに基づき，性ホルモンと排卵，月経異常，不正出血，腹痛などの婦人科主要症候，不妊症，閉経期，良性疾患（子宮筋腫，子宮内膜症）及び悪性腫瘍の講義を行う。

アクティブ・ラーニングは，小グループに分け，婦人科腫瘍に関するシナリオに基づき質疑応答を行う。

婦人科腫瘍（子宮頸癌，卵巣癌，子宮体癌）に関する病理学3コマを予定している。